

普及だより いわき

サンシャインいわき！
笑顔あふれる
農林業をめざして！！

2021年
9月発行 No.157

編集・発行

福島県いわき農林事務所 農業振興普及部

住所 〒970-8026 いわき市平字梅本 15 番地

電話 農業振興課 (0246) 24-6160

電話 地域農業推進課 (0246) 24-6161

電話 経営支援課 (0246) 24-6162

F A X (0246) 24-6196

トルコギキョウの産地化に向けてワークショップを開催！

トルコギキョウは、贈答用のボリュームのある八重品種から仏花用の涼しげな一重品種まで多種多様な品種がある、幅広い場面で活用できる花き品目です。

福島県は作付面積が全国5位のトルコギキョウ産地ですが、いわき地方では、1法人による大規模水耕栽培の他は、小規模の土耕栽培が点在して行われており、産地と呼べる生産規模ではありません。しかし、冬期温暖な平坦部から夏期冷涼な中山間部まで広く有するいわき地方は、様々な作型を組み合わせることで長期的にトルコギキョウを出荷することができる有望な地域です。

そこでいわき地方をトルコギキョウの産地にする第一歩として、山田町のトルコギキョウ生産者のほ場でワークショップを開催してきました。ワークショップでは参加者に実際の栽培作業を体験してもらい、令和2年12月18日の播種作業から令和3年7月19日の収穫、出荷作業まで全6回の開催を通し、栽培技術の習得を図りました。

ワークショップには、延べ76名の農業者が参加し、4戸の新規トルコギキョウ生産者を掘り起こすことができました。内3戸は、水稻育苗後にトルコギキョウを定植し8～9月に収穫する作型に取り組みました。後作としてストックやカンパニュラなどの秋～春に開花する花きを栽培することで、ハウスを年3回利用する予定です。

トルコギキョウは、他の花き品目よりも管理作業が多く比較的難しい品目ですが、その分切り花単価が高く、需要も大きい有望な花き品目です。

農業振興普及部では、今後とも勉強会の開催やICT技術の活用推進等、トルコギキョウの産地化に向けて支援を続けてまいります。トルコギキョウ栽培に興味のある方は、地域農業推進課（TEL24-6161）までお問い合わせください。



播種作業を体験する農業者



出荷作業を体験する農業者

「福笑い」が順調に生育しています！！

県が開発した県オリジナル水稻品種「福笑い」の一般栽培が、いわき市内でも本年から開始されました。

「福笑い」は、第三者認証 GAP を取得し、かつ研究会に所属することで栽培が可能となります。現在市内では2つの研究会が「福笑い」栽培に取り組んでいます。今年は好天に恵まれ、各地区の「福笑い」は順調に生育しています。

昨年産の「福、笑い」は首都圏での評価が高く、本県産米のイメージアップにつながっていますが、本年から栽培を開始した農業者も昨年以上のおいしい「福、笑い」を目指しており、農業振興普及部も品質の高い「福、笑い」の収穫に向けて技術指導を行っています。

「福笑い」の栽培に興味のある方は地域農業推進課（Tel24-6161）までご相談ください。
※品種名：「福笑い」、商品名：「福、笑い」



青々と育つ「福笑い」

いわき地方でピーマン栽培が広がっています

ピーマンは、高齢の農業者でも身体的負担が軽い軽量作物として有望であることから、いわき地方では昨年度から中山間地域を中心に栽培を推進しています。

本年度の栽培は、小川地区、三和地区、遠野地区、田人地区の生産者約40名に拡大し、5月下旬の定植以降、順調に生育が進み、7月下旬から三春町にあるJA福島さくらピーマン選果場へ出荷が始まっています。



ピーマン栽培指導中！

ピーマンは、露地で栽培できることから初期投資が比較的少なく、販売単価が高い高収益作物（115万円/10a；令和2年度いわき市実績値）であり、これから農業を始める新規就農者や会社を退職した定年帰農者等にオススメの品目です。

農業振興普及部では、JA やいわき市と連携し、生産者の栽培技術向上や規模拡大、仲間作り等を支援していきます。

ピーマン栽培に興味がある方は、経営支援課（Tel24-6162）までご連絡ください。

リンドウ栽培を始めてみませんか？

リンドウは、青紫色の花が特徴の夏を代表する仏花です。近年では、ピンクや白などの花色も開発され、アレンジメント用としても活用が期待できます。

リンドウは定植2年目から収穫が始まり、その後4～5年程度盛んに収穫することができる比較的省力的な品目です。

いわき地方では、「JAいわきリンドウ生産部会」がリンドウを栽培しており、月1回程度の指導会開催の他、地元市場であるいわき中央生花への出荷体制も構築されています。

農業振興普及部の試算では、7年間の栽培で約40万円/10a/年の所得となりました。水稻栽培と組み合わせるなど、補完品目としての導入がオススメです。

JAいわきリンドウ生産部会では、部会員を大募集しています。リンドウ栽培に興味のある方は、地域農業推進課（Tel24-6161）までぜひお問い合わせください。



いわき地域有機農業推進チームで有機栽培を応援します！

県は、持続可能な農業並びに循環型社会の実現を目的に、有機農業の推進を図っています。いわき地方での有機農業は、令和2年度では生産者8戸により、水稻や野菜を併せて10ha程度の栽培面積で取り組まれています。

有機農業は、使用できる資材が限定され、栽培管理も難しいため、独学で取り組むことが難しいという課題を抱えています。

そこで令和3年度より、地方の実情に応じた有機農業の具体的な推進を図るため、いわき農林事務所農業振興普及部内に有機農業推進チームを設置し、有機栽培生産者への個別巡回指導や有機農業組織への活動支援を精力的に行っています。

新規の有機栽培生産者への支援も行っていますので、これから有機農業を始めたい方や有機栽培に興味のある方は、地域農業推進課（Tel24-6161）までご連絡ください。



水田除草機による除草

鳥獣被害対策のポイント

鳥獣被害は、「捕獲」だけで防止できると思われがちですが、「生息環境整備」や「被害防除」の観点を含めた総合的な対策を実施することが重要です。

また、個人での対策には限界があります。各個人の営農環境を守るためにも、集落単位での「面」的な対策が必要になります。



①集落環境を整備しましょう！

放任果樹や収穫残渣があると餌があると学習し、鳥獣が集落に定着してしまいます。

また、ほ場と山間の中のヤブなど、鳥獣の通り道となる場所は除去してください。

②防護柵を適切に設置し、維持・管理体制について話し合しましょう！

加害獣種に適した管理が必要です。例えば、イノシシの場合は、電気柵の電線の高さを地面から20、40cmにするほか、傾斜や水路からの侵入や漏電による防除効果の低下に注意が必要です。

スマート農業・革新技術を推進します

本県農業は、高齢化による農業者数の減少やそれに伴う農地集積が進み、担い手への負担が大きくなっています。また、異常気象や災害の頻発も問題となっています。

県では、低コスト・高収益化、作業の効率化・省力化に向けて、ICTやIoT等のスマート農業の推進や県農業総合センターで開発・実証された先進的技術の導入・普及を図ることとしています。

いわき地方では、いわき市、JA全農、JA、いわき農林事務所からなる「いわき地域農業革新技術推進協議会」を設置し、平窪地区で実証している「なしジョイントV字トレリス栽培」を中心に、スマート農業・革新技術の推進を図ってまいります。

農業振興普及部では、水稻栽培での農業用ドローンによる防除等の支援、花き栽培での安価なIoT機器を用いた環境測定装置の導入など、スマート農業・革新技術の実態把握及び普及に尽力してまいります。

たい肥供給者リストが 更新されました！

いわき地方のたい肥を供給できる畜産農業者を紹介した「いわき市内たい肥供給者リスト」が更新されました。

ぜひ、市内で生産されるたい肥をご活用下さい。リストはいわき市のホームページに掲載されていますので、ご確認ください。



いわき市HP
たい肥供給者リスト

新規就農相談を受け付けています！

いわき地域は、冬期も温暖な気候を活かした野菜や果樹、花き等の園芸品目の産地です。

新規就農者を支援する制度や作物ごとの技術的な特徴など、それぞれの方の希望を踏まえながら、就農実現に向けた個別相談を実施しますので、経営支援課（Tel24-6162）またはいわき地域就農支援センター（Tel68-6238）へご相談ください。

いわき地区生活研究グループ 会員募集中！

「いわき地区生活研究グループ連絡協議会」は、いわき地方で農業を営む女性農業者13名からなるグループで、地域の子どもの食育活動を中心に毎年様々な活動に取り組んでいます。

市内の親子を対象とした収穫体験・料理教室に活用するため、今年度は落花生の栽培に挑戦しています！

活動の見学もできるので、興味のある方は、経営支援課（Tel24-6162）までご連絡ください。

残暑が続く季節こそ 農作業安全に取り組みましょう！

熱中症は夏場の野外だけで発生するものではありません！ いわき地方では、例年9月以降の気温が低い日や屋内での作業中にも熱中症が発生しています。

毎日の健康管理に加えて、屋外での作業時はマスクを外す、こまめに水分・塩分補給を行う、日々の安全確認を行うなど、いわき地方全体での農作業安全にご協力ください。

飼料作物のモニタリング検査で 安全な飼料生産を！

永年生牧草（イタリアンライグラスの経年利用含む）は、ほ場（農家）毎に県のモニタリング検査を受け、結果が暫定許容値以下であることを確認後、流通・利用して下さい。

令和2年度以前にモニタリング検査済みの永年生牧草は引き続き利用可能です。

未検査牧草を利用した場合、一定期間、牛を出荷できません。自給粗飼料を譲られる場合はモニタリング検査済か確認しましょう。

詳細は地域農業推進課（Tel24-6161）までお問い合わせ下さい。

クリ・ユズ・ギンナンは 出荷前の現地確認が必要です

クリ、ユズ、ギンナンは、過去に高めの放射性物質が検出されたことがあるため、出荷前にいわき農林事務所による現地確認が必要になります。

現地確認の申し込み等は経営支援課（Tel24-6162）までご連絡ください。

なお、すでに現地確認を受けた生産者は再度、現地確認を受ける必要はありません。

園芸振興に力を入れています！ ～「福島県園芸振興プロジェクト」～

県は、令和3年度より「福島県園芸振興プロジェクト」を立ち上げ、福島県ならではの主要10品目を重点化して持続的に発展する揺るぎない産地づくりを進めてまいります。

県の重点品目のうち、いわき地方では4品目の計画を策定し、生産者確保・技術向上・ブランド力強化等の対策に取り組みます。

<県の重点10品目>

（◆はいわき地方の推進品目）

果樹：もも、◆日本なし、ぶどう

野菜：きゅうり、◆トマト、アスパラガス、
さやいんげん

花き：◆りんどう、◆トルコギキョウ、
宿根かすみそう

園芸品目の導入に興味をお持ちの方は、ぜひ、いわき農林事務所農業振興部までご相談ください。

